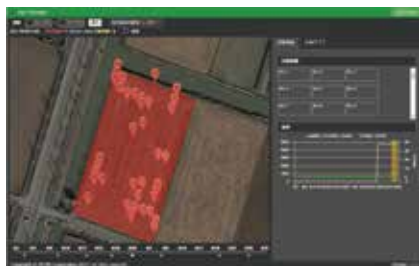


ピンポイント農薬散布テクノロジー による大豆の栽培に成功

農薬使用量 1/10 以下、残留農薬不検出、収量品質同等を実現

スマート農業の取り組みの中で、大豆の生育管理にドローンを活用し、病害虫が検知された箇所のみでドローンでピンポイント農薬散布を行う試みを実施しました。そして第三者調査機関により、ドローンを用いて栽培された大豆の残留農薬を検査した結果、残留している農薬が不検出相当であるとの検査結果がでました。これは、世界で初めて大豆の生育管理にドローンを用いて、病害虫が検出された箇所のみピンポイントで農薬散布を実施することで、通常栽培で使用する農薬の量の 1/10 以下に削減し、農家の方の生産コストを抑えられた栽培が成功したことを意味します。



AI が判定した39箇所



ドローンによる空撮



AI による害虫検知

検査方法

- 対象となる各大豆畑（通常栽培、ピンポイント農薬栽培）の 5 カ所から株を採取（合計 10 株。兩大豆畑の境目を避けて採取）
- 各圃場の 5 株を 1 検体として（合計 2 検体）、5 農薬について検査
- ガスクロマトグラフ質量分析にて測定

検査結果詳細（単位 ppm）

農薬名	通常栽培基準値	ピンポイント農薬散布栽培
エトフェンプロックス	3	すべて不検出 (0.01 以下)
クロラントラニリプロール	1	
テフルベンズロン	1	
ジノテフラン	2	
キザロホップエチル	0.3	

検査機関： 株式会社ブルーム（佐賀県登録 環境計量証明事業者）
検査監修：佐賀大学農学部 渡邊 啓一 教授



スマートやさい「スマートえだまめ」と命名

このたびピンポイント農薬散布栽培にて栽培された大豆はスマートやさいの「スマートえだまめ」と命名され、福岡県福岡市にある百貨店の福岡三越にて通常大豆（えだまめ）の約3倍の価格で販売されたうえ、好評のうち完売いたしました。